



日本被団協ノーベル平和賞受賞記念企画

未来へつなぐ平和のつどい

～千葉県原爆被爆者友愛会とともに～

開催報告

3月22日（土）ホテルポートプラザちばにて千葉県生協連主催の日本被団協ノーベル平和賞受賞記念企画「日本被団協ノーベル平和賞を祝して未来へつなぐ平和のつどい～千葉県原爆被爆者友愛会とともに～」を開催し、95名の方が参加されました。司会進行は不二女子高校演劇部の卒業生がつとめました。

第一部 ノーベル平和賞受賞を祝して

はじめに主催者を代表し、千葉県生協連 首藤会長理事より「日本被団協のノーベル平和賞の祝辞と友愛会の皆様の活動に対する敬意、また被爆・戦後80年の節目の年をむかえ、生協として被爆の記憶を継承していきたい」と挨拶がありました。次にご来賓の千葉県環境生活部くらし安全推進課課長渡辺修光様より熊谷俊人千葉県知事の祝辞をいただきました。会員生協からの祝辞では、千葉県生協連 高橋由美子理事が代表して祝辞を述べました。また、被団協事務局次長 児玉三智子様からはノーベル平和賞授賞の喜びとともに、今、この時期に選ばれたことへの重責と未来への想いについてのビデオメッセージをいただきました。最後に友愛会副会長谷本嘉雄様に千葉県生協連重田千鶴子理事より花束贈呈をいたしました。



渡辺修光課長



花束贈呈



首藤会長理事



高橋由美子理事

第二部 ノーベル平和賞授賞と次世代継承

受賞式のオスロツアーのサポートとして参加された一般社団法人核兵器をなくす日本キャンペーンスタッフの浅野英男さんに、過密スケジュールの中、テレビ等では知ることができない被爆者のみなさんが現地で取り組まれた様々な活動の様子や、現地での歓迎の様子を写真や動画を交えてお話いただきました。

また被爆者として同ツアーに参加された友愛会理事・市川被爆者の会事務局長の青木清子さんには、オスロ市内の路上でおこなった被爆証言の様子や現地での活動について話していただきました。



浅野さんと青木さんの報告



谷本嘉雄さん

青木清子さんによる被爆証言では、被爆直後の街の様子や、証言をはじめたきっかけなど、スライドと共に証言していただきました。友愛会の谷本嘉雄副会長には、半世紀以上にわたり、千葉県内の被爆者の支援や核のない世界を実現するための活動についてご紹介いただき、このほか生協でおこなう様々な平和に関する活動について、生協連の尼崎専務理事より紹介しました。



青木清子さん

次世代継承の取り組みとして不二女子高等学校演劇部顧問の小野寺弘先生に同校の理念や平和への学びについてご紹介いただき、その後、学校



朗読劇の様子

で被爆証言を聞いたことがきっかけで始まった同校演劇部による朗読劇「伝えたいあの日のことを」を上演しました。

会場では友愛会の活動支援として寄付を募り、終了後、皆様からお寄せいただいたの寄付金 28,300 円を友愛会に贈呈しました



小野寺先生

参加者アンケート(抜粋)

- ・日頃中々聞くことのできない貴重な話が聞けました。世界に目を向けると悲しい戦争がおこなわれ、人の命が失われています。まさに未来は永遠に「平和」でなければなりません。そうしたことから日本被団協のノーベル平和賞受賞は大きな意味があるんだと思います。
- ・今日は平和について、人の幸せについて改めて考えさせられました。日本被団協のノーベル平和賞受賞には世界でかつてないほどに核兵器の危機が迫っており、そういう状況だからという選ばれたという側面があると聞き、複雑な思いです。
- ・テレビからは伝わらない受賞式を感じることができました。
- ・不二女子高校の朗読劇、素晴らしかったです。小中学生にも聞かせてあげてほしいです。
- ・浅野さんと青木さんの授賞式とその前後のお話に聞き入りました。国と国の問題ではなく、人が人に原爆の悲惨さを伝え続けることで国を超えた人間同士の平和を願う心がはぐくまれるのだと思います。
- ・不二女子高校の朗読劇は原爆の様子が脳裏に描くことができ、悲惨さを感じることができました。苦しみは今も続いていることを実感しました。
- ・不二女子高校の朗読劇、心にしみました。ありがとうございました。
- ・平和について考える貴重な時間になりました。
- ・「平和」が当たり前ではないこと、今世にある核が一つでも使われるとどの様な事が起こるのか。一人一人想像することが大切だと思いました。
- ・不二女子高校の朗読劇は胸に迫るものがありました。映像と朗読の組み合わせも良かったです。
- ・心が揺さぶられる 1 日でした。浅野さんのオスロの様子の報告ではオスロの街の様子、参加者の皆さん、町の皆さんの様子に暖かさを感じ、涙が出ました。
- ・核兵器反対という思いはあれど、自分にできることなんてないのではと思うところもありましたが、皆様の活動のお話を聞いて、何かできることをやらなくてはと思いました。